

時 間 10:00～日没後30分（展示室への入場は日没時刻まで）

2. みどころ（ポイントなど）

- ・奈良原一高写真作品総数 780 点の世界一のコレクションを誇る島根県立美術館。奈良原の最初のシリーズ《無国籍地》50 点を展覧します。
- ・今年は、奈良原が客員として参加した前衛画家グループ「グループ“実在者”」の結成 70 周年にあたります。
- ・初個展「人間の土地」で、日本の戦後写真界に突然現れたように語られていた奈良原一高。じつは、この時期前衛美術の渦中におり、それが「人間の土地」を生み出す土壌となり、ひいては奈良原一高の基盤となったことを、2010 年の企画展「手のなかの空 奈良原一高 1954-2004」で示しました。その後作家からは、《無国籍地》全 50 点を、グループ“実在者”の仲間・堀内康司のご遺族から、同時期に同じ廃墟を描いた作品を寄贈いただくことになったのです。

●第 1 章 奈良原一高《無国籍地》

松江高校を卒業して 7 年後、奈良原一高（1931－2020）は初個展「人間の土地」（1956）を開催しました。それは、戦後日本の写真を大きく転換していく起爆剤となった伝説の展覧会です。奈良原は《人間の土地》のシリーズに先駆けて、戦後の廃墟を写した《無国籍地》（1954）を撮影しています。当初《人間の土地》の一部に組み込もうとしていたこの一連の作品は、大阪の砲兵工廠跡地と東京・王子の軍需工場跡地の廃墟を撮ったものです。



奈良原一高《無国籍地》

1954 年 島根県立美術館蔵 © Narahara Ikko Archives



堀内康司《無題》1954年 島根県立美術館蔵

●第2章 堀内康司《廃墟》

1955年4月、薮嘔（1931-）、池田満寿夫（1934-1997）、堀内康司（1932-2011）、真鍋博（1932-2000）の4人の画家たちが、反画壇を標榜する「グループ“実在者”」を結成し、奈良原はそこにオブザーバーのような形で参加しています。堀内は前年に会った仲間たちを、自ら作品を描いていた王子の廃墟へと案内しました。奈良原はすでに大阪で廃墟を撮っており、王子での撮影も含めてこの廃墟の詩《無国籍地》のシリーズを生み出していったのです。



堀内康司《廃墟》1954年 島根県立美術館蔵

●第3章

「グループ“実在者”」は、2度のグループ展を開催した後、各自の個展を連鎖展として展覧していきます。奈良原の個展「人間の土地」もこの連鎖展のひとつのように、「グループ“実在者”」の仲間たちが展示を手伝い見守ったのです。その後グループは解散しますが、豆本詩画集『5人の片眼の兵隊』をともに出版しました。



『5人の片眼の兵隊』表紙 1956年 個人蔵



『5人の片眼の兵隊』中表紙

島根創生計画

VI心豊かな社会をつくる
2スポーツ・文化芸術の振興
(2)文化芸術の振興(P.79)

【県 HP】

(島根創生を進めるための新規・拡充施策(令和7年度版))

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/zaisei/yosan/yosanr7/r7gaiyou.data/shinkikakujuR7.pdf>



(島根創生計画[第2期])

<https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/keikaku/shimanesousei/index.data/souseikeikaku2nd.pdf>



※別途、民間の配信サービスを利用し、情報発信する予定です。